

昔のくらしと 家庭の道具 2019

川崎市市民ミュージアム

アートギャラリー2・3

【主】川崎市市民ミュージアム

【開館時間】9時30分～17時（入場は閉館の30分前まで）

【休館日】毎週月曜日（ただし9月16日、9月23日、10月14日、11月4日は開館）

9月17日（火）、9月24日（火）、10月23日（水）、11月5日（火）



2019年10月3日（火）
12月1日（日）

観覧無料

昔のくらしと家庭の道具 2019

今から約100年前という遠い昔のくらしに思えますが、すでにこの時代には電気やガス、水道といった、現代生活に不可欠なライフラインの多くが登場していました。しかし、一方で多くの人々はまだ、くらしに必要なことを手作業で行っていました。

戦後、1955年から73年にかけて高度経済成長期をむかえ、世の中が豊かになってくると、人々のくらしは大きく変わりました。各家庭にライフラインや電化製品が行きわたるようになり、家事はこれまでと比べて手間も時間もかからないものへと変わっていきます。

本展では、こうした人々のくらしと家庭の変化について、生活道具の展示、茶の間や囲炉裏の再現模型、体験コーナーなどによって紹介します。

会場の展示資料はすべて当館の所蔵品であり、その多くはかつて川崎市域で実際に使われていたものです。本展が市民の方々にとって、川崎市の歴史・文化への関心を深める機会となることを目指し、貴重な地域資料を公開します。

【関連イベント】

日本映画傑作選 ビデオ上映 「昔のくらし特集」

各日10:30～/14:00～

9月6日(金)「ロッパの新編旅行」
(東宝/昭和15年/66分/
モノクロ/原作・監督・脚本・山本嘉次郎/
出演:古川緑波・三益愛子・
渡辺はま子・川田義雄)

10月4日(金)「結婚行進曲」
(東宝/昭和26年/83分/モノクロ/
監督:市川崑/脚本:井手俊郎・和田夏十/
出演:上原謙・山根寿子・伊豆肇)

11月1日(金)「駅前旅館」
(東宝/昭和33年/109分/カラー/
原作:井伏鱒二/脚本:八住利雄/監督:豊田四郎/
出演:上原謙・原節子・島崎雪子・杉葉子)
会場:3F ミニホール/料金:無料/
定員:各回40名/当日先着順

ギャラリーツアー

日時:毎月第3曜日(9月15日、10月20日、11月17日)
各日14:00～(30分程度)
会場:2F アートギャラリー2・3/当日直接会場へ

伝統芸能講座「[音]でたどる 川崎の祭礼と民俗芸能」

日時:①9月28日(土)、②9月29日(日)
各日14:00～15:30

講師:川崎理雄氏(神戸大学・日本学術振興会特別研究員PD)
ゲスト講師:宮内繁晴氏(保存会)※②のみ
会場:3F ミニホール/定員:各回40名/
料金:一人300円(中学生以下無料)/事前申込制(抽選)
申込期間:8月21日(水)～9月18日(水)

ベビーカーツアー

日時:11月7日(木) 11:45～(30分程度)
会場:2F アートギャラリー2・3/対象:未就学児
とその保護者/定員:6組/事前申込制(抽選)
申込期間:10月1日(火)～10月29日(火)

受付期間:申込期間初日の9:30から締切日の16:00まで(往復はがきは締切日必着)
※期間外の申込は無効
締切後に抽選を行い、締切日の3日後までに、当選者のみにメールをお送りします(往復はがきの場合は、当落いずれも通知いたします)。

【イベント申込方法】

事前申込制イベントは<HP>(各イベントページの申込フォーム)または以下項目を記入した<往復はがき>にてお申込みください。「講座・イベント名」、「参加日時」、「お名前(フリガナ)」、「電話番号」、「参加人数(最大4名)」、返信面に「ご自身の住所、お名前、郵便番号」を明記。

【アクセス】

JR・東急「武蔵小杉」駅北口1番乗り場からバスで約10分「市民ミュージアム前」下車すぐ
〒211-0052 神奈川県川崎市中原区等々力1-2(等々力緑地内)
TEL:044-754-4500 FAX:044-754-4533
<http://www.kawasaki-museum.jp/>

※当館に専用駐車場はありません。

お車でお越しの方は等々力緑地内駐車場(有料)をご利用ください。駐車料金の割引等はございません。

※65歳以上・大学生・高校生・中学生・障害者手帳等をお持ちの方は、いずれも証明できるもの(原本)をお持ちください。



戦前に子供たちを熱狂させたマンガ「のらくろ」。2019年はその作者・田河水泡(1899-1989)の生誕120周年にあたります。

「のらくろ」の大ヒットにより、田河のもとは杉浦茂や長谷川町子といった漫画家を志す才能豊かな弟子たちが集まり、他の出版社もマンガ分野に参入し始めたことで新進の漫画家たちも台頭、大量の子供向け物語マンガが登場することとなります。こうしたなかで醸成された豊潤な物語マンガの潮流は、戦後に登場する手塚治虫など新たな才能を育み、マンガ文化を大きく躍進させる原動力となっていたのです。

本展では「のらくろ」の原画の他、「講談社の絵本」のマンガ原画など初公開となる資料を多数出品。戦前から戦後にかけての子供向けマンガを紹介する、大規模な展示会となります。

【のらくろ】
天涯孤獨の野良犬黒吉(のらくろ)が、犬の軍隊の中で失敗を繰り返しながら、徐々に出世していくマンガ作品。1931(昭和6)年新年号から「少年倶楽部」(大日本雄弁会講談社)にて連載が始まり、戦前としては異例の全10巻に及ぶ単行本が刊行される。アニメーションやレコード、グッズなども大量に作られ、キャラクタービジネスの先駆けともなった。



「のらくろグッズと田河夫婦」
(1934年)個人蔵/©田河水泡



「のらくろの玩具を手にした田河水泡」
(1935年ごろ)個人蔵/©田河水泡



たがわすいほう
田河水泡

1899年2月10日-1989年12月12日
本名:高見澤伸太郎。1922年日本美術学校入学。前衛芸術に傾倒し「マヴォ」に参加。生活のため、創作落語を大日本雄弁会講談社に持ち込んだことで作家となり、絵も描けることから次第にマンガも頼まれるようになる。雑誌に発表したマンガをまとめた「漫画の雑話」(大日本雄弁会講談社、1930)などで一躍人気漫画家となった。1931年には「のらくろ」の連載が始まり、戦前のマンガを代表する空前の大ヒット作となる。



田河水泡「入賞の巻」原画
「のらくろ上等兵」収録
1932年 講談社蔵
©田河水泡/講談社



【関連イベント】

たがわすいほう
高澤路亭新作落語会
「猫と金魚」
田河水泡の知られざるもう一つの仕事、新作落語作家・高澤路亭の作品「猫と金魚」を口演していただきます。
出演:柳家喬之助、柳家小はげ
日時:10月13日(日) 14:00～(約1時間)
会場:1F 映像ホール/定員:270名/
料金:500円(中学生以下無料)/事前申込制(抽選)
申込期間:9月3日(火)～10月3日(木)

のらくろ・アニメーション・マニアックス講座
「のらくろ」は戦前に村田安治、瀧尾光世という一流のアニメーション作家によってアニメ化されていますが、その人気から海綿版のアニメも大量につくられました。知られざる「のらくろ」アニメを大公開し、戦前期アニメのディープな世界を担当学芸員がご案内します。
日時:9月22日(日) 14:00～(約90分)
会場:1F 映像ホール/定員:270名/
料金:無料/要観覧券/当日先着順
※開場は30分前 プリント提供:国立映画アーカイブ
協力:おもちゃ映画ミュージアム

ベビーカーツアー
日時:10月17日(木) 11:45～(30分程度)
会場:2F 企画展示室1、アートギャラリー1/
対象:未就学児とその保護者/定員:6組/
事前申込制(抽選)
申込期間:9月8日(日)～10月8日(火)

ギャラリーツアー
日時:毎月第1・3土曜日(9月21日、10月5日、10月19日、11月2日、11月16日) 14:00～(30分程度)
会場:2F 企画展示室1、アートギャラリー1/
要観覧券/当日直接会場へ

(上から)
井上一雄「バット君」単行本表紙原画(1947年)
川崎市市民ミュージアム蔵
長谷川町子「インガハマワレ」原画
([講談社の絵本 漫画と忠勇絵巻]掲載 1938年)講談社蔵
©長谷川町子美術館
鳥田啓三「キバツ三勇士 珍妙大試合」
([講談社の絵本 漫画博覧会]掲載 1937年)講談社蔵 ©鳥田啓三

©田河水泡/講談社